

設計開発での利用拡大中! 生成AIの現在とこれから

ご購入はこちら

佐藤 聖

生成AIの現在地

● AIが生成できるもの

生成AIの時代が到来しています。仕事でChatGPTやGeminiなどといった言語生成AIを利用している方も多いでしょう。これらのAIは文章作成やアイデア出し、さらには業務効率化まで幅広く活用されています。例えば企画書の作成時間を短縮したり、難解なデータを簡単に説明したりすることができます。

システム障害で生成AIサービスが停止し、社会に影響を及ぼしたといった事例がニュースや新聞で報道されています。これは、生成AIがもはや一部のツールではなく、私たちの日常やビジネスに深く根付いた基盤的な存在、社会インフラとなっていることを示しています。

生成AIが生成できるものとして、次のような例があります。

- 文章、コード、翻訳、会話、要約
- 画像(図1)、動画、3Dモデル、デザイン、ファッション、地図
- 音楽、声、効果音、歌声
- 合成データ、仮想データ

コンピュータで扱えるようなデータは、生成することが可能な時代です。文章や画像だけでなく、音声や動画、さらにはデータ分析用の数値データまで多岐にわたります。

定型/非定型のデータでも、生成AIは自動的にデータ構造を把握してデータを再現できるため、潜在的には想像以上に多様な種類のデータを生成できると考えられます。この柔軟性は、個人のアイデアを形にした

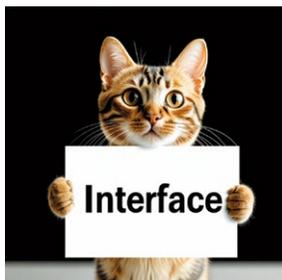


図1
生成AIによるリアルっぽい
画像

り、ビジネスの課題解決をサポートしたりする際に大きな力を発揮します。

特に、非定型データ(例:手書きのメモを再現、曖昧なリクエストによるタスク実行など)でも効果的に対応できる点が注目されており、初心者でも簡単に利用できる操作性が多くの場面で役立っています。

● 応用範囲は拡大中

実際のビジネスにおける利用の範囲も拡大しています。生成AIのタスクを実行するための高性能なハードウェアは、以前に比べて手頃な価格で入手できるようになり、個人でも始めやすい環境が整っています。また、ハードウェアをそろえなくても、オンラインの生成AIサービスを利用すれば生成が可能です。これにより、特別な技術や機材がなくても、簡単にその恩恵を受けられるようになっています。

さらに、生成AIの活用方法は日々進化しており、さまざまな業界の人たちが知恵を絞って、新しいビジネス、既存ビジネスでの利用を考案しています。

- カスタマ・サポート(問い合わせの対応、チャットボットの活用)
- マーケティング(顧客ごとの広告文章の作成、パーソナライズされたキャンペーン企画)
- 金融(リスク分析、レポート自動生成、詐欺検知)
- 製造業(生産計画、製品設計、異常検知)
- 教育(学習教材の開発、個別指導、プログラミング課題の自動採点)
- 医療(診断支援、創薬、健康モニタリング)
- 建築(設計、デザイン、都市計画シミュレーション)
- エンターテインメント(ゲームのキャラクター・プロフィール作成、音楽の自動作曲)
- 農業(作物の成長予測、スマートかんがいの計画)
- 法律(契約書ドラフトの生成、法的リサーチ支援)
- エネルギー(発電シミュレーション、環境影響評価)
- 観光(旅行プランの作成、多言語対応ガイドの作成)
- 科学研究(新素材の設計、天文学シミュレーション)

これら以外にも、利用範囲が限定的であったり、まだ発展途上だったりする分野もあるのも事実です。今後の技術の進化により、新たな可能性が広がることが期待されています。